212　軟部腫瘍における三相骨シンチグラフィー 特に平衡相の意義について

松本誠一、川口智義、真鍋　淳、黒田浩司、谷川浩隆（癌研　整）、小山田日吉丸、野村悦司（癌研　核）

軟部腫瘍における三相骨シンチグラフィーの平衡相の画像を他の画像および切除材料と比較することにより、その意義を検討した。

症例では、1985年より当科にて治療を行った軟部腫瘍142例である。

その結果、平衡相は、腫瘍の微細なstain像を良く反映しており、腫瘍の全体像をとらえるのに有効であった。しかし、平衡相の画像から組織型を類推することは困難であった。また、術前療法の前後で三相骨シンチを行った症例では、治療効果判定の一助となった。以上より、本検査は、軟部腫瘍の術前検査として有用であった。

213　骨 normal variant（正常変異）に対するシンチグラフィー

小俣　香、山岸嘉彦、山本博人、高橋政之、疋田史典、佐藤雅史、渡部英之（日本医大第二・放）

骨の単純X線写真で、生長過程における骨端核、骨端線や種子骨、さらには骨膜肥厚や嚢胞性陰影など、一見異常と思われる症例に遭うことは決して少なくない。腫瘍や炎症、または骨折などと誤ることもあり、鑑別が難しく、血管撮影やCT、MRが行われることもある。このとき ^{99m}Tc MDPによる骨シンチグラフィーが有用で、正常変異例では異常集積がないことが殆どである。最近経験した20例につき、単純X線写真および骨シンチグラムを供覧し、一部他の画像診断法について述べ、特に骨シンチグラフィーが診断上有用であることを報告する。

214　老齢者の骨シンチグラフィーの検討

村瀬　剛　五島幸隆　岩崎和幸　大谷正光（西京都病院画像診断部）梶並俊正　藤本良知　梶並溢弘（同 内科）山本逸雄（滋賀医大放科）

骨シンチグラフィーの対象は、骨転移巣の検索　原発性骨腫瘍　代謝性疾患　炎症性疾患　外傷等であるが、その中でも転移巣と非転移性の異常所見との鑑別診断は重要である。老齢者の骨シンチグラフィーの異常所見は腫瘍や骨髄炎など若年者にしばしば認められる異常集積よりも、むしろ肋骨骨折、脊椎圧迫骨折や変形性退行性骨疾患によることの方が多い。そしてこの様な集積は、重篤な骨疾患との鑑別上しばしば問題となる。今回老齢者における骨シンチグラフィーにおいて肋骨骨折、脊椎圧迫骨折や変形性関節症の集積の頻度、パターンを分析し、比較的良性の疾患と他の疾患との骨シンチグラフィー上の鑑別に関する検討を行い、それぞれに特徴的な所見を認め鑑別診断上の有意な成績を得たので報告する。

215　骨シンチグラムにおける肺野異常集積についての検討

鈴木孝成、石井　巌、下山田和裕、斉藤和博、平林省二杉木修治、横内順一、黒田真奈、兼坂直人、阿部公彦網野三郎　（東京医大　放）

骨シンチグラムにおいて種々の疾患や状態で骨外異常集積が認められることは既によく知られている。今回我々は特に肺野への異常集積について検討した。　最近4年間に骨シンチグラムを施行した4696例中、胸部への集積を認めたものは83例で、この内、肺野への集積を示したものは25例（男性15例、女性10例）であった。その内訳は、肺癌17例、肺癌術後2例、肺転移6例であった。平均年齢は63.7歳である。Gaシンチを同時に施行した20例を検討したところ、肺癌ではGaシンチの方が集積高度であったが、肺転移では、まちまちであった。肺癌への集積と組織型には特に相関は認められなかった。

216　副甲状腺シンチにおけるタリウムの下顎集積例の検討

河辺譲治、小田淳郎、岡村光英、牛嶋　陽、小橋肇子、澤　久、波多　信、下西祥裕、池田穂積、小野山靖人（大市大・放）、越智宏暢（同・核）

二次性副甲状腺機能亢進症(2HPT)患者の副甲状腺シンチにて、下顎にT1の集積を示す症例を経験した。同時期に施行した骨シンチも下顎に高い集積を示すものが多く、両シンチ像を比較検討した。　対象は副甲状腺シンチと骨シンチを施行した2HPT、83例。T1の下顎集積の有無と3段階に分類した骨シンチ集積度を比較した。T1の下顎集積は83例中21例に認めた。骨シンチの下顎集積は(3+)11例、(2+)37例、(1+)35例であった。T1の下顎集積陽性例は骨シンチ(3+)で6例(54.5%)、(2+)で13例(35.1%)、(1+)で1例(3.0%)であった。　骨シンチ集積度の高い例ほどT1の下顎集積を認める傾向を得た。

217　転移性石灰化を示す慢性腎不全症例の骨シンチ－骨外集積と骨集積の検討

牛嶋　陽、岡村光英、小橋肇子、河辺譲治、波多　信、澤　久、田中茂子、小田淳郎、大村昌弘、小野山靖人（大市大・放）、越智宏暢（同・核）

慢性腎不全患者の骨シンチにおける転移性石灰化例の骨への集積パターンを検討。　対象は透析期間1～17年、平均10年の骨シンチにおいて転移性石灰化を認めた30例。男性21名、女性9名。年齢は31～67歳。平均46歳。　転移性石灰化部位は臓器29ケ所（肺17、腎9、胃1、その他2）、軟部組織29ケ所（肩7、肘4、膝5、その他13）であった。骨シンチ像は頭蓋骨等に強い集積を認める副甲状腺機能亢進症(HPT) 型5例と正常型ないしBackground集積の高い骨軟化症型25例に分けられた。転移性石灰化はHPT 型には少なく、正常型ないし骨軟化症型に多くみられた。

Presented by Medical*Online